

障害者の声について

あなたは障害者の声を知っていますか？

私たちは実際に車イスに乗っている

田村さんにインタビューをしました。

田村さんは会社で事故にあい車イスの生活になりました。その二年後会社に復帰し

約三十年間会社に勤めました。その後自分でやりたいことを見つけ、会社を立ち上げました。

インタビュー

Q 障害者になっての視点

A 普通の人と変わらないうのに差をつけられるのが疑問に思う。何がダメなのだろう？

Q 仕事に復帰して困ったこと

A 机が低くて足がつかえて作業がしにくい

A トイレに時間がかかるため多目的トイレがないと不便である

Q 実際に困ったこと

A 人が多いスペースが少なくエレベーターなどに乗れず待つことが多い

A 困っていることがあれば相手に伝えることが大切
周りの人たちは動いてくれます。

Q どうやって助けてもらっている？

A 田村さんは車イスをもってもらったり、体をかっでもらったりしています。しかし田村さんは障害者に聞くことが一番いいとおしえてくれました。

Q 改善してほしいこと

A 障害者はあまり主張しない。周りの人は声をかけてあげて

想 実際の声を聞いてほしい知識や正しい認識を得ることができました。

地域で生きる

大阪府箕面市の北芝では、「まーぶ」という地域通貨が利用されています。まーぶという地域通貨を作ったNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝の丸岡朋樹さんは過去に部落差別を受けた経験があります。部落差別とは、江戸時代の身分制度のもとで差別された人や、特定の地域に居住している人に対する差別です。この差別は、実は今も続いています。例えば、丸岡さんは結婚するとときに部落出身であることと理由に反対されました。またそのような地域に住む子供は自尊心が低い傾向があるそうです。そこで丸岡さんは地域で子供たちが自分でかき分け「まーぶ」をつくり、地域で使えるようにしました。その過程で地域と子供のつながりが生まれています。そして子供たちが家庭環境に左右されずやりたいうことが出来るツールとして、現在も使われています。

「まーぶ」の仕組みを丸岡さんへQ&A

Q LGBTの当事者の数をグラフで表すと？
A グラフに三、四人いる

Q 性別適合手術を受けた人が多いのに対して、受けられる病院が少ないのは何故か？
A 手術を行う事は出来ず、法律の壁や手術に関わる医師の全員が同意しないと行えないのが原因

Q ストレートの方へ「まーぶ」について
A 多様性の中の自分であることと理解することが大切。

Q 悩んでいる人へひとこと

A 数少ないため、わかりにくいところはない。

正しい用語を覚えよう

・NG
レズ、ホモ、1-2、いなど
その他...
Q、Aなどもあり得る。

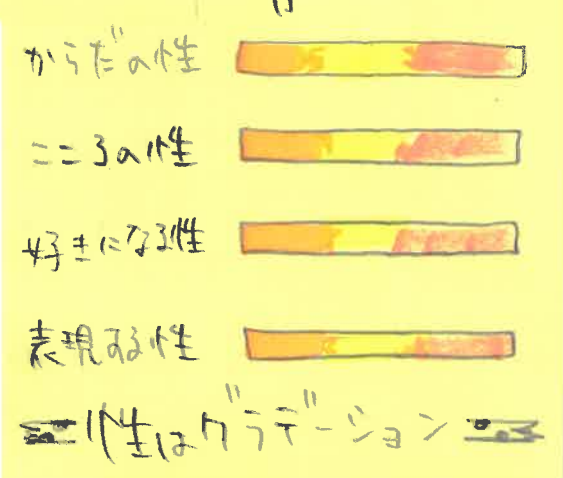
「まーぶ」!!

トランスジェンダー
身体と心の性が異なる人

バイセクシュアル
両性愛者

ゲイ
男性同性愛者

レズビアン
女性同性愛者



☆相談☆
「まーぶ」の仕組みが
わかります。
1人でも
相談しよう!!